

平成28年度第1回利根町総合教育会議 議事録

平成28年11月28日 午前10時00分開会

1. 出席者

【町長】	町長	遠山務君
【教育委員会】	教育長	杉山英彦君
	教育長職務代理者	武谷昭子君
	委員	木村矩男君
	委員	佐藤忠信君
	委員	村上盛一君

1. 欠席者

なし

1. 出席事務局職員

【町長部局】	総務課長	清水一男君
	企画財政課長	飯塚良一君
	総務課長補佐	久保田政美君

【教育委員会】	学校教育課長	寺田寛君
	生涯学習課長	坂田重雄君
	指導室長	直井由貴君
	学校教育課長補佐	大越克典君
	学校教育課長補佐	花嶋みゆき君
	学校教育課係長	布袋哲朗君

1. 協議事項

平和教育について

午前10時00分開会

○学校教育課長（寺田 寛君） おはようございます。

定刻になりましたので、ただいまより平成28年度第1回利根町総合教育会議を開会いたします。

初めに、遠山町長よりご挨拶をお願いいたします。

○町長（遠山務君） 皆さん、おはようございます。

今日は、平成28年度の第1回の総合教育会議ということで、お忙しい中、お集まりをいただきまして、大変ありがとうございます。皆さんにおかれましては、常日ごろより子どもたちの健全なる育成、また教育環境の整備等にご理解とご協力をいただいていますことを、この場をお借りして心より御礼を申し

上げます。

今、布川小学校、利根中学校の大規模改造の事業も順調に進んでいるところでございますし、子育て支援課で行っている児童クラブですが、今年は布川小学校に完成しまして、54名ぐらいの申し込みがございまして、来年度からは今、工事を行っている文間小学校の児童クラブも来年4月から使用できるというような状況で今進めているところでございます。

そして、文間小学校の体育館の大規模改造、これは国の当初予算、補助金がつかないんですけども、ここにいらっしゃる教育長、また職員の皆さんと一緒に文科省のほうへ要望に行ったところ、補正で100%、1,360万円ですけども、その残りの起債についても規定どおり満額認められて、ただ補正でつけていただいたので、今年度中には完成できないということで繰越明許費にして、来年度中には完成をするという予定でございます。

それと、社会福祉協議会のほうでやっている子どもの学習支援事業ですね。これは、15名前後のボランティアの先生が見つかりまして、今年の10月から始まっております。この間、橋本知事への要望提出、また懇談会の席上、知事のほうからありましたけれども、茨城県の平均は、数Ⅱを除いて全国で全て20番以内になったというようなお話をされておりましたが、利根町としても何とか学力向上も図っていきなと思っておりますので、どうか今後ともご協力をよろしくをお願いをいたします。

それと、この間、内閣府の地方創生推進事務局の横田参事官補佐と一緒にいる機会がありまして、ぜひ地方創生の予算をいろいろ提案して使っていただきたい。極力予算をつけるようにしますというようなことでありまして、教育関係のほうでも何かいい提案があれば、横田参事官補佐の方に繋がりたいと思いますので、もし良き提案があれば、提案等をいただければと思っております。

きょうは、「平和教育について」という議題でご協議願うわけでございますけれども、来年度8月6日、広島県の記念式典に中学生を、今、何名という決定はしていないんですけども、数名の中学生を派遣して、戦争の悲惨さ等を後世に残すために派遣したいと思っておりますので、その点について主にご協議をいただければなど、そして忌憚のないご意見をいただければなど、そのようにお願いを申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

○学校教育課長（寺田 寛君） ありがとうございます。

続きまして、杉山教育長、よろしく申し上げます。

○教育長（杉山英彦君） 改めまして、おはようございます。

大変お忙しい中、遠山町長、また教育委員さん、関係各位の課長さんをはじめ関係課の皆さんにお集まりいただき、平成28年度の第1回の総合教育会議の開催にあたりまして、今、町長のほうからもお話がありましたように、非常に町長のご尽力のもと、たくさんの教育環境整備をしていただいております。それに応えるべく子供たちの健全育成をこの教育環境のもとに成果を上げていかなくならないかなというふうに考えている次第でございます。

この総合教育会議におかれましては、昨年度は利根町の教育大綱づくりにご尽力いただきました。今年度は平和教育ということを挙げているので、忌憚のないご意見を伺いながら、よりよい教育現場の中に生かせるような内容での取り組みができることをご期待申し上げたいと思います。

まとまらないお話ですが、きょうの総合教育会議にたくさんのご意見をもって、いい活動ができるようお願いできればと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○学校教育課長（寺田 寛君） ありがとうございます。

議事進行につきましては、遠山町長にお願ひしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

○町長（遠山務君） それでは、皆様のご協力をいただきながら進めていきたいと思ひますので、よろしくお願ひをいたします。早速議題に入らせていただきます。

「平和教育について」を議題といたします。

事務局より説明をお願ひいたします。

○学校教育課長（寺田 寛君） それでは、ご説明いたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づき、利根町の教育に資するため、昨年度3回の利根町総合教育会議を開催いたしまして、「利根町教育大綱」を策定いたしました。それでは、皆様にお配りしております「大綱」の4ページ5ページをお開き願ひたいと思ひます。

この4ページで、「6 基本方針」というところの中の一番下ですが、「(4) 豊かな心を育む教育の推進」としまして、「子どもたちの豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自尊感情、他人への思いやり、人間関係を築く力、社会性、公共の精神、主体的に判断し適切に行動する力など、豊かな心を育む教育の推進」となっております。

次に右側5ページですが、(6)としまして「社会の変化に適切に対応できる教育の推進」として、「国際化や情報化など、社会の変化に適切に対応できる教育の推進」となっております。

次の(7)、「人権教育の充実を推進」としまして、「人権尊重の精神に基づき、差別のないよりよい人間関係の確立を目指す人権教育の充実」、こういうものを掲げているところでございます。

これらの基本方針に基づきまして、「平和教育」について総合教育会議において協議していただきたいと思ひます。

昨今の新聞、ニュース報道などによりますと、世界各地で民族同士の対立や地域の紛争や残忍なテロなどを目にしない日はないといっても過言ではないほど、マスコミをにぎわしている状況であります。今年で戦後71年を経過し、戦争体験をした人々が年々減少していく中、戦争の非人道的な悲惨さについて少しずつ風化されつつある傾向にあります。

また、昭和20年8月6日、9日に広島、長崎に原爆が投下され、日本では世界で唯一、原爆体験のある国として現在も毎年平和記念式典が開催され、世界に向けて、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けています。

このような状況の中、利根町では、昨年12月の議会におきまして「利根町非核平和都市宣言に関する決議」が全会一致で可決されたことに伴い、平和について再認識をして、今後とも平和の道を実践に歩んでいけるよう、先人から受け継いだ平和への願ひを次の世代へしっかりと継承していくことが、私達に課せられた大きな責務であると強く認識するところであります。これらを踏まえまして、今後におきましても小中学校の児童生徒に対しまして平和教育を進めていく必要があると考えているところでございます。

このような経緯で「平和教育について」ご意見を伺いたいと思いますのでよろしくお願いをいたします。以上です。

○町長（遠山務君） ありがとうございます。

今、寺田課長のほうから説明がございましたが、昨年12月の議会で、「利根町非核平和都市宣言に関する決議」が全会一致で可決されております。そして、町では平和教育の一環として来年の広島平和記念式典に中学生数名の派遣を検討しているところでございます。

派遣予定の詳細については、総務課より説明をお願いいたします。

○総務課長（清水一男君） 総務課の清水と申します。よろしくお願いたします。

それでは、広島平和記念式典への中学生の派遣事業についてご説明させていただきます。

この事業は、学校教育課長からもありましたように、平和教育の一つとして行います事業でございます。日本は世界で唯一の原爆体験国でありますので、その被爆地の一つである広島市へ、中学生の代表として数名を派遣するものでございます。事業内容としましては、来年の8月の5日、6日の一泊二日の日程で行う予定でございます。

行程としましては、まず8月5日の午後に広島市に到着しまして、被爆者からの体験講話、また、平和記念公園周辺を見学しまして、次の日の8月6日は、午前中に行われる平和記念式典に参加しまして、その後、原爆ドームなどの見学を行う予定でございます。

なお、この事業実施に当たりまして、中学生代表の選考、派遣前の学習、派遣後の学習報告会につきましては、教育委員会をお願いしているところでございます。

以上でございます。

○町長（遠山務君） ありがとうございます。

次に、教育委員会における平和教育についての取り組み状況について、お願いをいたします。

○教育長（杉山英彦君） それでは、まず、現在までの取り組み状況とこれからの、今後の予定について学校教育課長よりご説明いたします。

○学校教育課長（寺田 寛君） それでは、私のほうより説明いたします。

本年8月9日に、「平成28年度利根町戦没者追悼式」が挙行されました。これまで、来賓に国会議員、県知事、県議会議員、町議会議員をお招きしまして、町内の遺族会や一般の方々の参列のもと執り行っておりましたが、今回初めて利根町の小中学生5名が参列しまして、全員で献花、及び中学生の代表による平和への誓いを行いました。小中学生の児童生徒は、利根町において戦争により亡くなられた方々が大勢いたことや、戦争の悲惨さ、平和の大切さを認識できたのではないかと考えております。

次回以降もより多くの小中学校の児童生徒の参列を促していきたいと考えております。

以上です。

○教育長（杉山英彦君） 次に、学校での取り組みについて、その予定について、指導室長よりご説明いたします。

○指導室長（直井由貴君） それでは、私のほうからは、今後の学校での取り組み予定につきましてご説明したいと思います。

まず、生徒の学習状況ですが、社会科の授業で中学校2年生の3学期に「近代の日本と世界」という章で日清日露戦争について学習します。さらに、第一次世界大戦、第二次世界大戦ということで、中学校2年の歴史で3学期に学習するということになっております。

さらに3年生では、公民という教科書に変わるわけなんですけれども、公民では、中学校3年の1学期に、人間を尊重する日本国憲法の中で、「わたしたちの平和主義」というところで学習する内容になっています。

そうしますと、カリキュラムの位置づけですが、平和教育や過去の戦争内容については、今申しあげましたように、2年生の3学期から社会科の内容で学習するんですが、時数ということもありまして、社会科で6時間から10時間学習するのは難しいということから、この平和教育については、総合的な学習の時間というのがございまして、その中で位置づけていくのがいいじゃないかというふうに計画をしています。

今述べました総合的な学習の時間については、約6時間を考えております。対象学年としましては、今の段階の案としましては、学習内容から第3学年がふさわしいのではないかと。でも、あくまでも案の段階でございます。

この6時間の内容ですが、平和教育について、戦争の歴史や背景、それから世界唯一の被爆国である、こういった歴史について学ぶ時間を1,2時間。それから3時間目といたしましては、学年全体で取り組むこととしておりますので、東京の新宿区にあります平和記念展示資料館の見学ということをして1時間として考えています。ここにもし行った場合には、この校外学習のまとめの時間として1時間、報告会として1時間という位置づけをしております。

最後、6時間目といたしましては、広島平和記念式典に参加した生徒からの報告会ということで、学校全体として行う時間として1時間。合計6時間というような形で、現在のところ計画している予定でございます。

さらに、8月5日、6日の広島での記念式典派遣についてですけれども、対象学年は原則3学年と考えているところですが、1年生から3年生、利根中学生を対象ということにしています。選考につきましては、来年の6月中は選考する必要があるのかなど。選考方法については現在検討中です。

派遣の生徒が決まりましたら、役場の方で、やはり事前の派遣での学習、事前指導、事前学習、それから帰ってきてからの報告会ということを計画しています。

以上でございます。

○**教育長（杉山英彦君）** 続きまして、生涯学習としての取り組みについて、生涯学習課長よりご説明いたします。

○**生涯学習課長（坂田重雄君）** 今後の生涯学習におけます平和教育の取り組みでありますけれども、図書館に平和関係図書コーナーの設置、それから平和教育読み聞かせの開催等の取り組みをしていきたいと考えております。以上です。

○**町長（遠山務君）** ありがとうございます。

町としての平和教育の予定は以上でございますが、それぞれ皆様のご意見を伺いたいと思います。

何かございましたらお願いをいたします。

○教育委員（木村矩男君） 「平和」というタイトルで、パソコンで調べてみたんですけども、中学生で広島を訪問している子どもたちが多くいるということでした。こういった報告書を作成するという一方で、反対するところはないと思います。ただ、行った後、どういう形で中学校全体に広めるかということが大切だと感じます。

8月に、町の戦没者追悼式にも参加している報告もあり、小中学生を参加させたということは大変いいことだなと私は思っております。

○町長（遠山務君） 数名、広島へ行ってもらって、その後、どうするかというようなことだと思うんですけども、その点はどのような対応をする予定ですか。

○指導室長（直井由貴君） おっしゃるとおりで、行って終わりということではなくて、あくまでも町の代表者として、そういう認識を持って中学生を派遣させていただきまして、帰って来た後は、学校の全校集会を開きまして、全校集会の中で報告会という形で行うことで、平和教育についてさらに浸透すればということですよ。

ただ、やはりその報告会の持ち方というのが非常に重要になってくるのかなということがありますので、その辺を代表者のほうには事前に指導をしまして、報告書、写真、いろいろな形で報告ができるかと思っておりますので、そういった方向で進めていきたいと考えております。

以上です。

○教育委員（木村矩男君） それプラス、その報告会を受けて、子どもたちがどういう感想を持ったかなというのがあればいいのかなという感じがします。

○指導室長（直井由貴君） はい、おっしゃるとおりだと思いますので、一人一人の報告会、あるいは学習した内容を受けての感想という部分まで取り組んでいければと考えていますので。

○教育委員（村上盛一君） 戦後70年ということで、当然高齢者が本当に多くなって、また高齢者の方々が亡くなってきて、本当に戦争を経験された方のお話を聞く機会がなかなかない。

祖父母からお話を、孫・子どものときに祖父母から日本の戦争の体験を聞くなんていうことも、もう稀な状態になってきていると。そういうことからすると、やっぱり若い世代が戦争について語り継いでいくという、そういう若い世代を育てていくという視点からすると、この平和教育に現在の若い子どもたちをしっかりと育てていくと。そういう子どもを育成していくということからすれば、その基礎的なことを原型の段階でかかわっていくというこの平和教育の設定の仕方は、大変意義のあることだと思いますし、また、必要なことで価値のあることだと思いますね。

ここで突然どこかの学年でポンとやっても、やっぱりその学年による積み重ねというか、そういったものが当然望まれるんじゃないかと思えますね。広島に見学をして、それでこういうことを見てきた。それを発表した。それはそれだけで形としては済むんですけども、そこに至るまでの行かない子どもたちのその基礎的な知識というんですか、そういう戦争に対する怖さとかいろんな学年ごとの、学年レベルの段階での知識、また考え、そういったものがある程度備わってきて、代表者が行って発表になったときに、そうなのかと。それが、自分の今まで勉強してきたことと直結して本当に身になると。

だから、何人かだけが行って、行った人間がそれを発表して、ああ、そうなのかということでは、本当にしっかりした知識というか、そういった世代というのは育成できないと思うので、そういう小学校の段階からの、小学校だけではそんなに深いことを考えられないと思うんですけども、小学校から中学校までの段階的な積み重ねというのがやっぱりないと、本当の意味での利根町の平和教育の特色というのが出ないのかなというのにはちょっと感じたんですけど。

○指導室長（直井由貴君） おっしゃるとおりだと思います。私も計画を立てているときに、ある学年、ピンポイントということよりは、やはり今お話が出ましたように、発達段階も踏まえて、段階的に平和教育という部分でやっていくのがふさわしいのかなということは考えておりましたものですから、総合的な学習の時間という年間計画の中で、3時間4時間ぐらいを生み出す中で、今お話が出たように小学校例えば高学年、中学1, 2, 3と持ち上がることで、教育をより深く理解できるような児童生徒の育成のほうも視野に入れながら、計画のほうを再度練り直すことも必要であるというふうには考えております。以上です。

○町長（遠山務君） そうですよ。毎年遺族会で靖国神社に参拝に行っているんですけども、これは毎年6月21日に日にちを決めて。ちょうど平成の初めごろには、大型バス3台くらいで行ったんですけども、今は1台でも間に合う。そのくらい遺族も、嫡子というんですかそういう人たちが少なくなっていて、もう代がかわっていて、今おっしゃったように、戦争を直接体験していない人が中心で今は靖国神社参拝となっています。何人かはいらっしゃいますけれどもね。だから、後世に伝える人がだんだんいなくなるということで。慰霊祭も前は結構出席者が多かったんですけども、やはり遺族そのものが少なくなってきたので、出席者がだんだん少なくなっているという傾向にあります。

利根町の場合、慰霊祭も、人口の割には非常に出席者が多いと思います。5万人6万人の町でも大体少ないところでは60~70人しか出ないというところもございますから、そういう点では利根町では割合慰霊祭そのものは。前は毎年やっていたんですけども、2年に1回にして、今は3年に1回。そういうような状況で、とにかく遺族会の嫡子がいなくなってきたということは本当に、しょうがないですけれども、戦後71年経っていますからね。

そのほかございますか。

○教育委員（木村矩男君） 平和教育とは戦争だけではないような、気がするんですよ。というのは、小学校の低学年あたりは、友達と仲よく平穏な日々を送るというのも、平和かなと思うんですね。戦争が起こる原因は何か。いわゆる欲が張るとかというのが根にあるんじゃないかと思うんですよ。だから、そういうのを公平、平等を保って、いかにバランスを保てるかというような教育も何か必要かなと思うんですけども。

○指導室長（直井由貴君） おっしゃるとおりだと思います。今、いじめとかが問題になっていますけれども、やはりその大きな視点では今言われたような、平等であったり仲よくするというのを低学年のうちから浸透させていくということが重要かと思っておりますので、その辺につきましても、この平和教育とリンクさせたり、あとは道徳教育、こちらを充実、推進していくことで、子どもたちの心を耕しという部分で行っていければと思っております。

○**教育長（杉山英彦君）** 本当にふだんから子どもたちの情操教育と申しますか、豊かな心、生命尊重を含めた部分で、平和教育という一つの観点到達点の部分もございまして、ふだんから日常での生活の中で、他人とのかかわりとか思いやり、そういうものを育てていくというのが原点なのかなと思います。

常々町長さんは、道德教育を基盤に人間育成を進めてくれということをおっしゃっていますので、私も、各学校の校長先生方に道德教育の下、豊かな人間性を築いていくようにというふうなお話をしております、その一環として、平和教育に結びつけていくということが大切なのかなと思います。

○**教育委員（武谷昭子君）** 広島に中学生が行くというのは、とても素晴らしいことだと思います。報告会を受けて、そして、私はもう少しみんなで語り合って、自分たちはどういうふうに生きるべきか。先輩たちに対してどういうことを学んだかということを含めて、その報告会を受けた後に自分たちで、中学生がみずからの自分たちの意見で何をしようということを立ち上げるぐらいのところまで話し合いを進めたら、いかがかと思えます。

そして、自分たちだけじゃなくて、自分たちが中学生で、学業の一番忙しいときでありますけれども、それを踏まえて、自分たちが少しでもと思えば、小学生との自分たちが体験してきたその報告を受けたことを、小学生と対でお話をすると。そういう身近にできるような時間があれば、子どもたちも遠い昔と言わなくて、ちょっと近い中学生から聞くということで、また平和に関して考えが小学生でも生まれるんじゃないかと思えます。

そして、ただ、昔のことだからじゃなくて、今、町長も話したように、だんだん戦没者に対する皆さんの気持ちも薄らいでいっていると思うんですね。そこら辺まで中学生が親の代も含めて少し家庭で話すことによって、そこまで続くんじゃないか。そこら辺まで広げていけば、広島に行った甲斐があるんじゃないかと思えます。

また、これは1回きりじゃなくて、そのうちに何年か先には修学旅行を兼ねてみんなでいきたいというふうな、子どもたちからの盛り上げも出てくるまでみんなで話し合いが煮詰まればいいなと私は思います。ただ、報告が素晴らしいから、それで終わりというのは、ちょっと残念です。それから先を考えていただければ嬉しいです。

○**指導室長（直井由貴君）** 今のお話なんですけれども、確かに報告会だけで終わらないことが一番で、時間とか、もし小中連携の部分、あるいは文化祭等、何かでリンクしながら、学校も行事等で結構忙しい部分もありますので、何とかの行事なんかで話し合いと申しますか、終わりのな部分でもできれば、より本当に深まるのかというふうに考えていますので、行事調整委員会等がありますので、その中で提案しながら、何とかうまくできるように考えてはいきたいと考えております。

○**町長（遠山務君）** 今回初めてなので、行って見て、それでいろいろ状況を見て、ぜひ2年目3年目、続けていきたいなどは思っております。

○**教育委員（佐藤忠信君）** お話を事前に委員会でお聞きしたときに、ただ行くのではどうかとちょっと思っていたんですが、実際、先ほど室長なり、事前の勉強をして現地に行って、現地でまたいろいろな話を聞いたり、見学をしたりということで、あれは非常にいいなと思っております。また、全校集

会で全学年に対してそういう報告をするということは、すごく大事だと思います。

先ほど木村委員や武谷委員からも、さらに先というお話が出ておりますが、例えば各クラスから何名とか、さらにクラスの中で、社会科の授業の中でワークショップ的なものを行って、そこで代表の子が発表しながら、みんなで考えていくと。最後、感想じゃないですが、そういう話を聞いてどうだったかというところをクラスごとにまとめるとか、グループごとにまとめるということをするれば、より深いものになるのではないかと考えております。

やはり全校集会になりますと、ただ、ポーッと聞いて終わってしまうと思いましたが、それも必要だとは思いますが、さらに踏み出してほしいと思うんですね。やはりグループで考えて、また、私も以前、外国の青年を連れて広島に行って、平和教育の一環でエスコートしたことがあるんですが、もう語り部の方の話が非常にショックというか、歴史で学んではいたんですが、そんなにひどかったのかというふうに改めて考えさせられたので、多分あそこへ行って話を聞いた子どもは、非常に衝撃を受けると思います。そういった気持ちがまだ冷めないうちに、そういうところでクラス全体で考えるとか、そういうことがあったらいいんじゃないかなと思いました。

あと、今年だったと思うんですが、龍ヶ崎市の歴史民俗資料館で企画展のような形で、原爆の地図がありまして、落ちた地点とかそういったものが展示されておりまして、やはり亡くなった方たちの写真とかもたくさんありましたので、入場の際には、それを考えて入ってください、そういうことであつたんですが、そのときはそういう利根町も企画展みたいなことでできたらいいんじゃないかとちょっと思いました。以上でございます。

○教育長（杉山英彦君） 今のご意見なんですけれども、初めての試みなので、どういうふうにやっていくかというのは今後の皆様のご意見を伺いながら、いい方向に持っていければ、ありがたいなというふうに思います。その広島を平和教育を起点として、学校教育の中でいろいろなことに広げることができると思いますので、そういう初めての試みを経て、2年3年継続していく間にももっともっと広まった教育ができ、進めていければなというふうに考えております。

○町長（遠山務君） そのほかございますか。

まず何人ぐらいとか、これからでしょうけれども。大勢行ってくれるのはいいんですけれども、予算の関係もありますので。

○教育委員（佐藤忠信君） 逆に、現地の語り部さんをこちらにお招きするというで。

○町長（遠山務君） 語り部さんそのものがもう80歳以上で、もう90歳近くになっているのでね。

○教育委員（佐藤忠信君） 本当に衝撃的なお話をされますので。

○教育委員（村上盛一君） 最初に子どもに教えるべきものは、その真実ですよ。

だから、日本は原爆を落とされてかわいそうだ、被害者だという、そういうだけで終わることはないように。実際日本人がいろいろなことをやっているんですよ。だから、被害国ばかりではないんですよ。加害国でもあるし、被害国でもある。そういったものの真実を積み上げているということになるので、そうすると戦争はなぜ起きたのかなと子どもたちやっぱり考えるようになると思うんですよ。

平和というものを今空気のような感じで、子どもたちは平和を。今度はあってもなくても同じような感じで捉えていると思うんですね。

国、国際社会での平和ということを考えれば、そこから、国の平和、県とか地域の平和、地域の安定ということも考えてくるんですね。学校、学級、そしてまた自分たちのそばの、先ほど木村委員がおっしゃったような本当に身近な中での平和。やっぱりそういったことに目が届いていくという、そういったところに行くためには、まず真実を伝える。そういったことで本当に価値のある今回の広島への派遣かなということだと思いますね。

教育課程の基準も、ちょっと見ましたら平和教育という言葉はないんですけども、国が学習指導要領を改訂するときの基準の中に、他国と協力して、国際社会の平和に貢献するような、そういう主体的な日本人の育成という部分が明確に出ているので、そういった学習指導要領の国の方向性にしっかりマッチしたものが、新たに利根町でこれが設定されるというのはすばらしいので、非常に価値のあることだと思いますので。

まあ予算の関係もあるので要求は余りできないんですが、ぜひとも継続していただいて、本当に全部に積み上げていっていただければありがたいなと思いますね。

○教育長(杉山英彦君) 時期的なものも、夏休みということで、学校にそう負担はかからないかなと思いますね。

○教育委員(佐藤忠信君) そうですね、3年生は受験を控えていたりするとちょっと大変かなと思ったりですね。

○教育長(杉山英彦君) 継続ができて、今後も継続、そして学習課程が幅広く進められていけたらなと。

○町長(遠山務君) そのほかご意見等ありましたらお願いいたします。ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○町長(遠山務君) ないようでしたら、その他についての方に移ってよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○町長(遠山務君) じゃ、その他に移ります。その他でご意見等ございますか。

せっかくの機会ですので、何か、委員の皆様方、ございましたらお願いをいたします。

○教育委員(村上盛一君) この後ろの利根町PRのバックパネルですが、私はちょうど33年前にこのキャッチフレーズで引っ越ししてきたものですから、非常に懐かしい。今後もこういう、すばらしい利根町の良さをさらに広げていってもらえれば良いと思います。30年前に比べると、本当に東京には通いやすくなっていると思いますね。「お勤めは東京圏、住むなら利根町」、「子育て世代をとことん応援しています」。余り外にはPRされていないのかなと思って、こちらはすばらしいキャッチフレーズだと思います。

おかげさまで、利根町に家を構えた関係で、子どもたち3人とも健全に育っていったものですから、すばらしいなと思っています。

○町長(遠山務君) 利根町で育った子どもたちがどんどん戻って来てくれればね。

○教育委員（村上盛一君） 里帰りで、お産とかね。お祭りとかね。定期的には戻ってくるんですけどもね。

○町長（遠山務君） お祭りは多いですね、戻ってくるのはね。利根町納涼会とか各地区でやっているお祭りとかね。こんなに子どもがいたのというくらい戻ってきますからね。

そのほかございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○町長（遠山務君） 無いようでしたら、第1回の利根町総合教育会議を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

午前10時44分閉会